



学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ
2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	Webマーケティング実践 I		（ NGM20C ）
講義名（コード）	Webマーケティング実践 I		（ NGM20CX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	ryui	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有） デザインルームエム	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	現実の課題に対してWebマーケティングを実践する。企画から実行、評価までの一連の流れを理解できる。
全体的内容と概要	現実社会の課題からマーケティング施策を立案、実行する。
授業時間外の学修	オンラインの活動
履修上の注意事項 等	社会人として活動する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	個人課題Aの設定	1年次で計画した物品販売を個人の課題として設定、作業計画策定ができる
2	個人課題A マーケティング実践	個人課題の作業ができる
3	個人課題A マーケティング実践	個人課題の作業ができる
4	個人課題A マーケティング実践	個人課題の作業ができる
5	個人課題A マーケティング実践	個人課題の作業ができる
6	個人課題A 実践の評価、検証	作業をまとめることができる
7	個人課題A 実践内容の発表	作業の内容や評価について説明できる
8	個人課題Bの設定	新しい課題を個人ごとに設定、作業計画を立てることができる
9	個人課題B マーケティング実践	個人課題の作業ができる
10	個人課題B マーケティング実践	個人課題の作業ができる
11	個人課題B マーケティング実践	個人課題の作業ができる
12	個人課題B 実践の評価、検証	作業をまとめることができる
13	個人課題B 実践内容の発表	作業の内容や評価について説明できる
14	全体課題Cの設定	全員で取り組む新しい課題を設定、作業計画を立てることができる
15	全体課題C マーケティング実践	協働して課題の作業ができる

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	グーグルアナリティクス概論 I		（ NGM20K ）
講義名（コード）	グーグルアナリティクス概論 I		（ NGM20KX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	デザインルームエム	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	WEBマーケティングSEOの実践には欠かせないアクセスログ、SNSのインサイトログの役割と概要を理解する
全体の内容及概要	前期は、生徒にとって身近なInstagramなどのSNSのインサイトログをベースに説明。 アクセスログの意味と役割の認知を上げる
授業時間外の学修	とくになし
履修上の注意事項等	実際のアクセスログをどのWEBサイトのものを使うか

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	テストを行い、アクセスログの役割と用語などの理解を評価		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	アクセスログ存在の認知	みなさんの行動の記録がマーケティングデータになること どこまで知られているのか、知ることができるのか
2	専門用語の理解	リーチ、インプレッション、エンゲージメントなどアクセスログに出てくる専門用語の意味の説明
3	アクセスログの評価の理解	何をみて、判断するのかの説明 評価の結果はなににつかうのかの説明
4	SNSのインサイトの理解	Instagramではインサイトと呼ばれる 自分のアカウントのログの見方
5	改善方法の理解	もっと多くの人にみてもらうためにはどうするか？ もっと見て欲しい人にみたもらうためにはどうするか？
6	ハッシュタグツールの共有	ハッシュタグツールを使って、アクセスの多いハッシュタグをしる これもアクセスログ解析ツールの一つ
7	実践して結果判断する	先週の授業の後で改善策を行なってどう変わったか、各自発表
8	中間まとめ	前期の折り返しで、今までの授業の振り返りとまとめ
9	各種アクセスログツールの共有	いろいろなアクセスログ解析ツールの紹介 適所適材を説明
10	競合他社のデータを知るツールの共有	自分が管理していない会社や商品のWEBサイトの様子を見ることができる それでわかること
11	SEOとの関係性の理解	SEOとアクセスログは切ってもきれない中の理由
12	WEBマーケティングとの関係性の理解	WEBマーケティングツールとして、一番つかわれるのがアクセスログ アクセスログが読み取ってマーケティングする
13	実際の事例紹介	講師の管理するサイトをベースに説明
14	実際の事例紹介	講師の管理するサイトをベースに説明
15	前期最後のまとめ	前期の振り返りと試験について

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	講師の実際の業務の中で守秘義務に触れない範囲のものを適時提供
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	SEO		(NGM20N)
講義名 (コード)	SEO		(NGM20NX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	吉田達矢	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	SEOと検索広告の役割と正しい知識の習得
全体の内容と概要	SEOの知識とその管理の仕方を実例を見ながら教えます
授業時間外の学修	とくになし
履修上の注意事項等	とくになし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	テストを行い、SEOの役割と用語などの理解を評価		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	SEOってなにかの認知	言葉の意味の説明 日常生活では無縁の言葉だが、日常生活ですごく深く、広く使われていることの共有
2	SEOの歴史と意味の理解	いつから始まったのか なんで普及したか
3	Googleが決めるSEO	Googleがリールをつくり、NGを決める NG判定について
4	ビックキーワードの理解	ビックキーワードとはなにか？ ビックキーワードをみつける
5	検索広告とSEOの関係の理解	検索したら出てくる広告のしくみ
6	SNSのSEOについての理解	SNSにもあるSEOはハッシュタグ どんなハッシュタグをつかってる？
7	ハッシュタグの理解	ハッシュタグ最適化とSEOのビックキーワードの関係
8	中間まとめ	前期の振り返りで、今までの授業の振り返りとまとめ
9	WEBマーケティングとSEOの関連性の理解	WEBマーケティングとSEOの関係について 両方をどう連携するか
10	ブランディングを考えたSEO	ブランディングを踏まえたキーワードとは どんなお客さんに来て欲しいかを考える
11	SEOのNG例の共有	SEOの黒歴史の実例紹介
12	SEOの評価測定ツールの理解	Googleが提供するサーチコンソールの説明 なにができるのか
13	実際のデータの内容の理解	Googleが提供するサーチコンソールの説明
14	実例紹介	実際のサイトのデータを見ながら、評価分析を行う
15	前期最後のまとめ	前期の振り返りと試験について

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	特になし (後期では導入予定で現在策定中)
参考文献・資料等	実際のデータ、NBLのWEBサイトデータ
備考	NBLさまのWEBのアクセスログの共有

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2025年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス資格対策Ⅲ		（ NGM20U ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティングⅢA		（ NKT22EA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Excel機能を活用し実務で使われているテンプレートの構成を理解して処理ができるようになる 自分のレベルに合わせた資格の取得
全体の内容と概要	日商PC検定（3級・BASIC）またはMOS検定のうち自分の受験科目を選択し検定対策をする
授業時間外の学修	資格試験受験に向けて、プログラムや模擬問題でくり返し練習してください
履修上の注意事項等	資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
1	セルの参照機能を理解し注文書、請求書などの書式を作成できる	注文書を使ってセルの参照機能を学習する 日商Basic練習プログラムの操作（Basicレベル受験希望者は今後各自練習）	
2	条件付き書式とテーブル機能 視覚的なデータの把握と管理できる	カラスケール・データバー・アイコンセット他の条件付き書式の設定 テーブルの作成と機能の利用方法	
3	ピボットテーブルの作成 機能を使ったデータ集計ができる	ピボットテーブルの作成・データの集計の変更方法	
4	受験科目決定し目標を決める MOS検定の問題を確認し理解する	MOS Excel365&2019 Expert模擬第1回を学習 高度な機能を利用したユーザー設定の入力規則や表示形式、関数の利用 分析ツール、グラフ、ピボットテーブルを活用したデータの分析や評価	
5			
6	検定受験対策 (科目ごと学習し 解答できるようになる) MOS Excelの高度な機能を活用し さまざまな目的や状況に応じて 利用環境をカスタマイズできる BASIC 基本的な操作を取得 指示に従った正確なデータ処理	MOS 出題範囲問題	Basic 出題範囲問題 (プログラム練習)
7		・ブックの設定管理 ・高度な機能を使用した数式の作成 ・高度な機能を使用したグラフ、 テーブル作成 ・ユーザー設定のデータ表示形式や レイアウトの適用	模擬1 基本の計算式
8			模擬2 グラフの編集
9			模擬3 データベース分析
10			補足問題 累計の計算・レーダーチャート
11	模擬試験プログラムを利用した 検定試験練習 プログラムで練習することにより 実際の試験形式の手順を習得する	資格試験 模擬試験プログラム練習	
12		BASIC 商工会議所サンプルプログラム・FOM出版問題集	
13		MOS FOM出版 Word 2016 Expert 対策テキスト&問題集 (受験できる学生は検定受験)	
14	まとめと解説	期末テスト	
15	まとめと解説	テスト F B	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間アカデミック Office2021 MOS Excel Expert 対策テキスト&問題集 日商PC検定試験公式テキスト&問題集 3級（貸出）・BASIC（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	資格試験対策として日商PC検定・MOSの模擬試験プログラムを利用

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	WebデザインⅢ		（ NGM21A ）
講義名（コード）	WebデザインⅢ		（ NGM21AX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	デザインルームエム（水野、寺島）	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム（水野、寺島）	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有）デザインルームエム	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	JavaScriptの基礎を学び、インタラクティブな要素を含むWebサイトが制作できるようになることを目指します。
全体の内容と概要	1年次で習得したHTML/CSSの理解を深め、JavaScriptの基礎を学び、自身のポートフォリオサイトを作成します。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	1年次のおさらいと2年次の目標を確認し、準備を進める	1年次で学んだ、HTML・CSSについて振り返り、2年次で学ぶ事を確認し、制作するサイトについて制作に必要な準備を進めます。
2	JavaScriptの基本概念と構文を理解できるようになる	JavaScriptの役割を学び、開発環境やデバッグツールを理解します。変数や基本データ型、コンソール出力の使い方、基本的な演算を習得します。
3	JavaScriptの制御構造を理解し使用できるようになる	条件分岐や繰り返し処理を学びます。配列の基本操作やオブジェクトの使い方を理解し、JavaScriptの制御構造を習得します。
4	Javascriptの関数とスコープの概念を理解できるようになる	関数の宣言と呼び出し、引数と戻り値の使い方を学びます。スコープやライフサイクルを理解し、匿名関数や関数式の使い方も習得します。
5	DOMの基本概念と操作方法を習得し操作できるようになる	DOMの概念を学び、Javascriptを使った要素の取得方法を理解します。要素の属性や内容を変更・追加・削除する方法を習得します。
6	JavaScriptのイベント処理を理解し実装できるようになる	イベントの基本概念を学び、追加方法を理解します。主要なイベントタイプを習得し、イベントオブジェクトを活用する方法を学びます。
7	JavaScriptを使って作品を作成できるようになる	Javascriptのおさらいを兼ねて、今まで学んだ事を活かして、簡単なJavascriptのゲームを作成します。
8	サイトマップとワイヤーフレームを作成できるようになる	自身のポートフォリオサイト作成を目指し、目的とターゲットを明確にし、サイトマップとワイヤーフレームを作成します。
9	ワイヤーフレームを基にコーディングできるようになる	前回作成したワイヤーフレームを基に、Web標準や構造に配慮しつつ、トップページのHTMLをコーディングします。
10	サイト全体の統一感を意識したCSSの設計をできるようになる	サイト全体の統一感を意識しながら、共通部分からCSSを設計し、トップページのCSSをコーディングします。
11	効率の良いサイト構築ができるようになる	共通部品を意識し再利用しながら、各ページのHTMLのコーディングを進めます。
12	CSSの整理整頓ができるようになる	CSSの再利用について学びながら、不足しているCSSを追加し、各ページへCSSを適用します。
13	レスポンシブ対応について理解し、実装できるようになる	レスポンシブデザインの概念を学び、異なるデバイスで表示が崩れないようにCSSで調整します。
14	サイトで使われるインタラク션을実装できるようになる	Javascriptを使って、タブ切り替え・アコーディオンパネル・モーダル・スムーズスクロールなどインタラクティブな動きを追加します。
15	サイトを公開するための手順を理解できるようになる	サイトを完成させ、公開の準備を進めます。制作物を発表して相互評価を行います。前期の振り返りを行います。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	コンテンツコミュニケーション I		（ NGM21E ）
講義名（コード）	コンテンツコミュニケーション I		（ NGM21EX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	水崎 歩実	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	SNSマーケティングの基礎と実践を行い、作業フローの確立と効率を高めることを目指します
全体の内容と概要	個人とビジネスでのSNSの役割の違いから、運用戦略の立案、実際の取材・投稿作成・投稿を行うつつ、SNSマーケティングでの基礎を学びます
授業時間外の学修	取材・投稿作成等が授業時間内で完了しなかった場合や推奨投稿時間の指定がある場合、授業時間外での作業を行っていただく場合があります
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	授業内容を理解し取材・投稿内容が作成できているか。また、指定した期日までに定めたコンテンツ作成を完了できるか。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	個人とビジネスでのSNSの役割の違いがわかる	本授業で行っていくことの全体像と目指すものを確認。個人使用のSNSの用途と、ビジネス上での用途の比較を行う。
2	SNSにおいて目的・コンセプトの重要性がわかる	SNSアカウントにおいて、目的・ターゲット・コンセプトの必要性を確認し、現在使用しているアカウントの各項目を明確にする。
3	SNSプロフィールの役割と目的別の構成の仕方がわかる	設定したコンセプトに沿ったプロフィール画面の構成を考える。目的別に推奨されるプロフィール構成が変わることを確認する。
4	ハッシュタグの役割と使い方がわかる	ハッシュタグの役割と効果的な使い方をプラットフォーム別に確認し、それを踏まえた投稿を実際に作成する。
5	SNSのアルゴリズムと閲覧者が気になる構成がわかる	SNSでも最も重要な項目の一つであるアルゴリズムについてと、閲覧者が思わず注目してしまう投稿の特徴について学び、実践する。
6	地域と連携したSNS投稿の計画の立て方がわかる	地域連携SNS事業を題材にし、改めて目的・ターゲット・コンセプトを検討する。また、それを踏まえた投稿計画を立てる。
7	計画に沿った取材の方法がわかる	コンセプトに沿った投稿計画を踏まえ、完成イメージから逆算した取材を計画通りに行う。また、取材時のマナーなども実践する。
8	計画に沿ったコンテンツの作成方法がわかる	取材で集めた素材を使って、計画通りの投稿を作成できるかを作業しながら検討する。また、魅力的な説明文の書き方を学ぶ。
9	SNS上で計測できる数字の概要がわかる	フォロワー数を増やすために計測が必要な数字について学ぶ。また、フォローしたくなるアカウントの共通点や構成などを考える。
10	改善点を見据えた投稿を前提にした取材の方法がわかる	改善点を確認した上で投稿計画を作成し、計画から逆算した素材を事前に想定した上で取材を行う。
11	エンゲージメントと双方向性の重要性がわかる	フォロワー数よりも重要となるエンゲージメントと、エンゲージメント率を高めるための双方向性について学ぶ。
12	短尺縦長動画の流行とその理由について学ぶ	短尺縦長動画の流行の理由と各プラットフォームでの機能の違いを学ぶ。その上で、動画での投稿計画を立て、取材を行う。
13	短尺縦長動画の制作方法と構成がわかる	取材した素材を使って投稿を作成する。またその際、注目されやすい動画構成やレイアウトについて学ぶ。
14	まとめ	SNSに関する用語の確認と、良質なアカウントを発見し客観的分析を行う。また、その内容をプレゼンテーションにまとめる。
15	まとめ	作成したプレゼンテーションを発表し、評価とする。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	Canva 基本&デザインTIPS！無限に役立つ使いこなしワザ152（マリエ著／技術評論社）
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	グラフィックデザイン応用 I		（ NGM21G ）
講義名（コード）	グラフィックデザイン応用 I		（ NGM21GX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	デザインルームエム（水野、寺島）	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム（水野、寺島）	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	（有）デザインルームエム	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	1年次で学んだスキルを活用し、実践を繰り返しながら更なるスキルの習得と経験の蓄積を目指します。また、クリエイター能力認定試験合格を目指します。
全体の内容と概要	クリエイター能力認定試験に向けた勉強を進めながら、自身のポートフォリオの作成やデザインコンテストへの応募など実践を行います。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	制作物の仕様に合わせたツールが選択できるようになる	コンテスト応募作品の募集内容とテーマを確認し、応募内容に則した作品を作成するためのツールを選定します。
2	デザイン制作の流れが理解できるようになる	デザインの目的とターゲットを明確にし、スケッチやメモにアイデアを書き出します。テーマとスタイルを決めてから全体のイメージを考えます。
3	レイアウトについて理解できるようになる	デザインに必要な要素を書き出してから、テーマやコンセプトに則って優先順位を考えながらレイアウトします。
4	細部まで仕上げ、完成度を高めることができるようになる	全体のバランスを考えながら、要素の配置やフォント・色の微調整などを行い、デザインを仕上げます。
5	最終物に合わせたデータの出力ができるようになる	デザインを最適なデータ形式で保存し、最終確認を行います。コンテストへ応募するために必要な情報と合わせて提出します。
6	ポートフォリオに必要な要素を理解できるようになる	自身のポートフォリオ（印刷物）の目的を明確にし、どのような内容が必要かを考え、基本要素を書き出します。
7	制作物の仕様や最終形を考えられるようになる	ポートフォリオの内容を精査し、大まかなレイアウトを考え、最終の印刷仕様を決定します。
8	内容を簡潔に表現できるようになる	自己紹介や経歴、スキル、作品などの要素を、限られた紙面の中に収まるようにレイアウトを考え、デザインを作成します。
9	印刷に適した画像の作成方法を理解できるようになる	掲載する写真・画像を用意し、印刷に適した解像度、カラーモード、ファイル形式で書き出し、レイアウトに配置します。
10	印刷に適したファイル形式で出力できるようになる	レイアウトとデザインの最終調整を行い、印刷できるように出力先に合わせてデータを書き出します。
11	Illustrator試験の出題範囲を理解できるようになる	Illustratorの基礎をおさらいしつつ、認定試験（スタンダード）の出題範囲を確認し、勉強方法を計画します。
12	試験の模擬問題を解いて出題傾向を理解できるようになる	Illustrator試験の模擬問題に解説を見ながら挑戦し、出題傾向や自分に足りないスキルを理解します。
13	試験の採点基準を理解できるようになる	Illustrator試験の模擬問題に挑戦し、自己採点を行い、採点基準や配点傾向を学びます。
14	試験を時間内に終わらせられる感覚を理解できるようになる	Illustrator試験の模擬問題（実技問題）に実際の試験時間を設定して挑戦します。
15	試験を時間内に終わらせられる感覚を理解できるようになる	Illustrator試験の模擬問題（実践問題）に実際の試験時間を設定して挑戦します。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	UX・UIデザイン I		(NGM21I)
講義名 (コード)	UX・UIデザイン I		(NGM21IX)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	水野泰雄・長谷川 胖	時間数	30
成績評価教員	水野泰雄・長谷川 胖	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	マーケティングとユーザー・コンシュマを理解するとUX・UIが今の時代に欠かせない
全体の内容と概要	マーケティングとユーザー・コンシュマを理解する
授業時間外の学修	UX・UIを意識して世の中を見る、そして疑問をもつ
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	UX・UIを理解する	UX・UIでどんな事なのか？
2	UXに付いて理解する	UXに付いて生徒間で対話してもらう
3	UIに付いて理解する	UIに付いて生徒間で対話してもらう
4	UX・UIがどのようにマーケティングに関わっているかを理解する	マーケティングの理解 ステイクホルダーの考え方
5	マーケティング重要性	マーケティングとユーザー・コンシュマを理解する
6	マーケティング理解	テーマを検討・何が必要かを検討
7	マーケティング理解と実践準備	テーマを検討・何が必要かを検討
8	何が必要か制作の実例から学ぶ	マーケティングプラン制作の実例 (実例) から学ぶ
9	マーケティングプラン制作	UX・UIを理解してプレゼンテーションプランの制作
10	マーケティングプラン制作	SP・プロダクト・イベント・発信ツール・タイムテーブル制作・見積・予算・スタッフ・等プレゼン用マーケティングプラン制作
11	マーケティングプラン制作	制作に関しての個々の質問解決
12	マーケティングプラン制作	プレゼン準備完成する
13	プレゼンテーション能力	一人一人が持ち時間内でプレゼンテーションを行い質疑・応答
14	プレゼンテーション能力	一人一人が持ち時間内でプレゼンテーションを行い質疑・応答
15	マーケティングUX・UIまとめ	マーケティング・UX・UIの理解プレゼンテーション能力

教科書	
参考文献・資料等	今までの個人の制作物
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	eコマース I	(NGM21O)	
講義名 (コード)	eコマース I	(NGM21OX)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	吉田達矢	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ネットショップなどのECサイトのコンセプト&商品企画から、 マネタイズに必要な知識と考え方を身につける
全体的内容と概要	ECサイトの運用に関わる知識と実習
授業時間外の学修	既存ECサイトの探索や評価
履修上の注意事項等	とくになし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	ECサイトを理解する	ECサイトとはなにか？何ができるのか？実店舗との比較とメリット・デメリットを知る
2	店舗での商売を理解する	そもそも商売の基本を知る。ヒト・モノ・コト・カネについて考え、商売の基本を理解する
3	お店を作るプロセスを理解する	ECを理解するためには、リアル店舗も含めた、客と店の繋がりや導線を考える
4	好きなECサイトを見つけ学ぶ	自分がECサイトを考える時に、自分が顧客として気に入ってるECサイトを見つけて、その良さについてまとめて、プレゼンテーションする
5	ECサイトのプロモーションについて理解する	お店を新しく開店したときに一番重要なのが、広報と広告宣伝でありどうやってお店を広く認知してもらうのかを考える
6	ECサイトの企画を考える	誰に何を提供するのか？売上はいくらになるのか？自分でできること、人に頼むことなどを洗い出す
7	ECサイトの企画を発表	前回の授業で考えた内容をプレゼンテーションして、みんなで評価する
8	ここまで学んだことの復習	ここまでの事業の振り返り
9	顧客の導線を学ぶ	生徒が考えたECサイトの企画をいろんなマーケティングプラットフォームのカスタマージャーニーを使って分析する
10	顧客の導線を学ぶ	前回分析したカスタマージャーニーを発表
11	事業としてのスキームを可視化することを体得する	ビジネスモデルキャンバスを使って、事業スキームの可視化を行う
12	事業としてのスキームを可視化することを体得する	各自が可視化したビジネススキームを発表し相互評価する
13	自分達で実習するECサイトを考える	後期に開設するBASEのECサイトの企画を全員でディスカッション
14	自分達で実習するECサイトを考える	企画を確定する
15	テスト前振り返り	前期授業の重要なポイントについて振り返る

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	クリエイティブデザインⅠ		（NGM21Q）
講義名（コード）	クリエイティブデザインⅠ		（NGM21QX）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	水野泰雄・長谷川 胖	時間数	30
成績評価教員	水野泰雄・長谷川 胖	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	AI時代のクリエイティブの変化とプロセスを知ってもらう。生成AIをどの様に使うかを考える
全体の内容及概要	クリエイティブプロセスの変化と生成AIの登場で変わる広告制作・メディアの変化による時間軸の変化すべての人がクリエイター・マーケッターと称する今、コンプライアンスについて知る
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	AIについて無視出来ない時代	生成AIをどのような思うか？
2	AIをどのように捉えているか	一人一人がAIをどのように捉えているか15分間のプレゼンする事により思考の整理・プレゼンテーション能力・他人の価値観を知る
3	AIをどのように捉えているか	一人一人がAIをどのように捉えているか15分間のプレゼンする事により思考の整理・プレゼンテーション能力・他人の価値観を知る
4	AIをどのように捉えているか	一人一人がAIをどのように捉えているか15分間のプレゼンする事により思考の整理・プレゼンテーション能力・他人の価値観を知る
5	AI・AGI・LLMをどのように捉えているか	今の時代AIについての知識が無いと困る
6	AIを使いこなすには	AIに使われるか？使いこなすか？
7	クリエイティブとは	創造するの意味で使われているわけ
8	デザインするとは	広い意味で使われているデザインを考える
9	UXとの関わりについての理解	クリエイティブ・デザインとか言うけれど何の為？
10	UIとの関係について理解する	今の時代は目まぐるしい変化の中メディアミックスの選択が難しい
11	メディアミックスの理解	ニューメディアとオールドメディアを考える
12	コミュニケーションに付いて	人と人そこに面白さがある
13	言葉に付いて考える	言葉の不思議
14	肯定・否定を理解する	クリエイティブで大事な事+とーをいつも考えるこれを上手く扱えれば
15	クリエイティブデザインとは何か	最も大事な事は自分の目で見て体験して想像して考え自分で決める

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	企画書・制作物・システム等
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	IT検定対策Ⅲ		（ NGM21S ）
講義名（コード）	IT検定対策Ⅲ		（ NGM21SX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小松一雄	時間数	30
成績評価教員	デザインルームエム	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	企業活動や経営戦略の基礎を学び、実務に生かすことを目指す。 本授業終了により、ITパスポート試験受験の準備を完了する。
全体の内容と概要	企業活動や経営戦略に関する基礎的な知識について習得する。 企業活動や経営戦略に関するホットな話題について取り上げ、理解を深める。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	期末テストを実施し、その点数を評価基準に用いる。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	会社の財務に関する基礎知識を理解する。	損益分岐点、貸借対照表、損益計算書などについて説明する。
2	会社の組織と責任について理解する。	会社の成り立ちやコーポレートガバナンス、コンプライアンスについて説明する。
3	社員の育成およびデータサイエンスについて理解する。	社員の育て方、請負や派遣、データサイエンスについて説明する。
4	AIの歴史およびメカニズムについて理解する。	人間中心のAI社会原則、機械学習、ディープラーニングについて説明する。
5	関連法規について理解する。	知的財産権、個人情報保護、セキュリティ法規などについて説明する。
6	企業活動に関する理解力をつける。	企業活動に関する過去問の演習を行う。
7	会社の現状を分析する手法について理解する。	SWOT分析、バランススコアカード、プロダクトライフサイクルなどについて説明する。
8	マーケティングや営業戦略について理解する。	マーケティング理論、新しいマーケティングの考え方やデザイン思考について説明する。
9	社会を支えるITシステム、IOTやDXについて理解する。	社会を支えるシステム、IOTやDX(デジタルトランスフォーメーション)について説明する。
10	企業が業務に使うシステムについて理解する。	電子商取引やシステム開発の動向について説明する。
11	経営戦略に関する理解力をつける。	経営戦略に関する過去問の演習を行う。
12	企業活動・経営戦略に関する理解力をつける。	前期講義内容について、弱点強化のための集中講義を行う。
13	企業活動・経営戦略に関する理解力をつける。	前期講義内容について、弱点強化のための集中講義を行う。
14	期末テスト	期末テストの実施
15	期末テストのフィードバック	期末テストの問題について、解答を解説する。

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ITパスポート合格読本
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	プロジェクト演習		(NKT23G)
講義名 (コード)	プロジェクト演習B		(NKT23GB)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	吉澤 隆一、水野 泰雄	時間数	30
成績評価教員	吉澤 隆一、水野 泰雄	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	プロジェクトを設定し、活動できる
全体の内容及概要	別科目で設定されたプロジェクト活動の作業を行う
授業時間外の学修	オンラインの活動
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	授業出席率75% 以上		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	テーマを検討し、設定できる	プロジェクト演習の進め方 テーマ設定、スケジュール作成
2	当初案をまとめ、プレゼンできる	プロジェクトのテーマプレゼン
3	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
4	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
5	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
6	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
7	活動内容をプレゼンできる	プロジェクト 中間プレゼン
8	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
9	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
10	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
11	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
12	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
13	プロジェクト実行、個別テーマの調査研究ができる	プロジェクト 作業
14	活動内容をプレゼンできる	プロジェクト 中間プレゼン
15	活動内容をプレゼンできる	プロジェクト 中間プレゼン

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	ない s

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	キャリアデザインⅢ		（ NKT23H ）
講義名（コード）	キャリアデザインⅢB		（ NKT23HB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高木 良幸	時間数	30
成績評価教員	高木 良幸	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	キャリアコンサルタント・公共職業安定所勤務経験	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。社会人として必要とされるマナーを習得する。⇒企業で活躍できる人間形成
全体の内容と概要	講義と演習により、就職内定へ向けて実践的なマナーやスキル、企業研究、職種研究、インターンシップの活用を通じてマッチング方法を習得する。
授業時間外の学修	インターンシップ、合同企業説明会＆面接会参加（WEB含む）
履修上の注意事項等	主体性をもって、授業に取り組む姿勢、就職に意欲的に取り組む姿勢。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画			
回	到達目標	授業内容	
1	授業内容の理解 進路手帳活用方法理解	【オリエンテーション】講師紹介 前期の内容について説明	【演習】進路手帳記入活用
2	就職情報の入手方法と活用について 理解する	【企業情報収集方法】キャリアスUCエ ントリー、マイナビ活用方法説明	【演習】キャリアスUCエントリー、マイ ナビエントリーと活用
3	就職活動スケジュールの理解就職活 動計画作成	就職活動スケジュール説明 就職に必要な書類、スキル、準備物	【演習】就職活動スケジュール作成 (シート記入) 就職に必要な書類、スキ ル、準備物チェックシート記入
4	自己紹介ができる	【自己理解】自分の長所、短所、内的・ 外的キャリアを考える方法	【演習】自己紹介文作成と発表
5	他人の紹介ができる	【他者理解～自己理解】他者の良い所を見出 し、自己理解、自己PR書作成に生かす。	【演習】自己紹介文の修正と発表
6	自己PR書が書ける	【自己PR書とは】自己紹介、他者から見た自 分の長所から自己PR書に落とし込む	【演習】自己PR書作成 200字～400字程度、提出
7	雇用状況、企業について理解する	【企業を選ぶ視点】企業を選ぶ6つの視 点を知り、志望する企業を選択	【演習】企業研究 進路手帳ワークブ ック利用
8	仕事（職種）について理解を深める	【仕事理解】どんな仕事があるか？どん な仕事に興味があるか？どんな会社か？	【演習】興味がる仕事、会社の研究シー ト作成（進路手帳）
9	面接の基本知識を理解する	【面接に行くためには】準備とマナー、 ポイントについて	【演習】面接に向けた行動計画と準備、 行動計画表作成（進路手帳）
10	面接の受け方、マナーを理解する (1)	【面接について】基本スキルの確認 集団面接、個別面接、グループディスカッション	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同 士
11	面接の受け方、マナーを理解する (2)	【面接】悪い面接マナー説明 服装、挨拶、言葉遣い、姿勢	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同 士
12	面接のテクニックの習得	【面接】良い面接マナーと悪い面接マナー復習 評価項目について	【演習】面接演習 スーツ着用 学生同 士で評価、講評する
13	インターンシップについて理解する	【インターンシップ】企業選定、企業へ の応募、連絡方法について	【演習】インターンシップ計画表作成 (進路手帳)
14	まとめと対策	【テスト】記述式	【演習】挨拶状作成（進路手帳）
15	まとめと対策	【テスト F.B】	

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	留学生：『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） 日本人：就職内定基本テキスト（日本能率協会マネジメントセンター）
参考文献・資料等	なし
備考	担当教員はキャリアコンサルタントとしての実務経験を活かし、就職内定へ向けての実践的なカリキュラム運営を行う

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス英語Ⅲ		（ NKT24A ）
講義名（コード）	ビジネス英語ⅢB		（ NKT24AB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスシーンで使える英語を身につける。
全体の内容と概要	リスニング、特にスピーキングの練習を中心にコミュニケーション能力の向上を図る。
授業時間外の学修	新しい語彙・フレーズを復習し、会話文の音読練習をする。
履修上の注意事項等	クラスアクティビティに積極的に参加することが求められます。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	初対面の同僚に自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
2	ビジネスミーティングで自己紹介ができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
3	ゲストを同僚に紹介することができるようになる	実際の場面を想定しながらペアで練習する。
4	1～3回【挨拶】の復習	様々な場面を想定して練習する。
5	留守電にメッセージを残すことができるようになる	留守電にメッセージを残す方法を練習する。
6	電話で伝言を残すことができるようになる	電話で伝言を残す方法を練習する。
7	同僚に伝言を伝えることができるようになる	同僚に伝言を伝える方法を練習する。様々な場面を想定して適する時制を使えるようにする。
8	5～7回【電話】の復習	様々な場面を想定して練習する。
9	空港でチェックインできるようになる	空港でチェックインする方法を練習する。
10	入国審査や税関を通過できるようになる	入国審査や税関を通過する場面を練習する。
11	9～10回【海外出張編】の復習	様々な場面を想定して練習する。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	新装版 即戦力がつくビジネス英会話
参考文献・資料等	英会話フレーズ大特訓ビジネス編、ゼロからスタートしごとの英会話、本当に必要な社内英語、Business as Usual
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ		（NKT24J）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅢ A		（NKT24JA）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解したうえで、場面に応じて文法、語彙を使い分け、コミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N1の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	「説明書き」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 1	読解：ABCギフト券 聴解：発音に関する聞き取り
2	「表・リスト」が理解できる 「準備しよう」が理解できる 2	読解：例題 2 0、練習 5 0 聴解：文法に関する聞き取り①
3	実践問題が理解できる 1「準備 しよう」が理解できる 3	読解：中文理解 例題 2 1 聴解：文法に関する聞き取り②
4	実践問題が理解できる 2「準備 しよう」が理解できる 4	読解：中文理解 練習 5 1、5 2 聴解：会話表現
5	実践問題が理解できる 3「準備 しよう」が理解できる 5	読解：中文理解 練習 5 3、5 4 聴解：まとめ問題
6	実践問題が理解できる 4 問題 のパターンに慣れよう 1	読解：内容理解（長文）例題 2 2 聴解：どんな返事をしますかー即時応答
7	実践問題が理解できる 5 問題 のパターンに慣れよう 2	読解：内容理解（長文）例題 2 3 聴解：このあと何をしますかー課題理解
8	実践問題が理解できる 6 問題 のパターンに慣れよう 3	読解：内容理解（長文）練習 5 5 聴解：どうしてですかーポイント理解
9	実践問題が理解できる 7 問題 のパターンに慣れよう 4	読解：主張理解（長文）例題 2 4 聴解：どんな内容ですかー概要理解
10	実践問題が理解できる 8 問題 のパターンに慣れよう 5	読解：主張理解（長文）練習 5 7 聴解：どうすることにしますかー統合理解①
11	実践問題が理解できる 9 問題 のパターンに慣れよう 6	読解：主張理解（長文）練習 5 8 聴解：どれにしますかー統合理解②
12	実践問題が理解できる 10 問 題のパターンに慣れよう 7	読解：主張理解（長文）練習 5 9 聴解：まとめ問題
13	実践問題が理解できる 11 い ろいろなタイプの話の聞こう 1	読解：統合理解 例題 2 5 聴解：情報を聞こう
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	完全マスターN1読解 日本語総まとめN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	日本語資格対策Ⅲ		（ NKT24L ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅲ A		（ NKT24LA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	相手の心情を理解し、適切な言い回しをすることで、コミュニケーション力を高めるとができる
全体の内容と概要	日本語能力試験N1の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる1	文法：～ところ(を) ～の至り、～をもって 語彙：文脈規定 1
2	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる2	文法：～こととて ～にたえねい ～たる 語彙：文脈規定 2
3	お礼や抱負含むを改まったスピーチができる3	文法：～限りだ、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 3
4	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる1	文法：～じゃあるまいし、～んばかり、～たら/～ばそれまでだ 語彙：文脈規定 4
5	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる2	文法：～ものを、～ときたら、たところで 語彙：文脈規定 5
6	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる3	文法：～（よ）うが、～（よ）うが～まいが、～なら～で 語彙：文脈規定 6
7	仕事上の話題について、批判的な意見を交えて社内で話ができる4	文法：～にすれば、～までのことだ、CHECK 語彙：文脈規定 7
8	仕事の結果について、振り返りながら 社内で話ができる 1	文法：～といったらない、～（よ）うにも～できない、～まくる 語彙：文脈規定 8
9	仕事の結果について、振り返りながら 社内で話ができる 2	文法：～にしたところで、～てみせる、CHECK、まとめの問題 語彙：文脈規定 1 0
10	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～つ～つ、～ともなく、～べく、 語彙：文脈規定 1 1
11	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～からというもの、～ながらに、～までのことだ、 語彙：文脈規定 1 2
12	や古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解する	文法：～をものともせず、～かたわら、CHECK、 語彙：文脈規定 1 3
13	や古風な表現を味わいながら、出来事の経緯を追って登場人物	文法：～めく、～やいなや、～ごとき、 語彙：文脈規定 1 4
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	文字語彙：ドリル&ドリルN1 文法：TRY N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名（コード）	ビジネス翻訳 I		（ NKT24N ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳 I A		（ NKT24NA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄	なし	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	秋学期にはビジネスメールなどの翻訳ができるようになることを目指し、今学期はそのために必要な基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
全体の内容と概要	今学期は基本文法の総復習を行うとともに、ビジネス英語特有の表現や語彙を習得する。
授業時間外の学修	ビジネス英語特有の表現や語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
2	中学英語の総復習	中学英語の復習とビジネス用語を身につける。
3	時制が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
4	助動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
5	仮定法が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
6	受動態が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
7	不定詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
8	動名詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
9	分詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
10	準動詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
11	関係詞が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
12	比較が理解できるようになる	翻訳に必要な文法を学びつつ、ビジネス用語を習得する。
13	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	肘井学のゼロから英文法が面白いほどわかる本
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	